

海外に出る甲斐

「岩崎元郎の地球を遠足」と名付けた世界の山旅を、アルパインツアーサービス(株)にアレンジして貰い、毎年 7～8 回あっちこちを巡り歩いている。

海外の山と言うと、「日本の山だってたいして登っていないのに、海外なんてとてもとても……」と、手のひらを横に振る方がいらっしゃるが、もったいない話だと思う。実は昔、ぼくもそう思っていた。初めてのネパールも、ぼくが行きたいと思って計画したのではなく、山岳会の後輩が行きたいと言うので、それじゃ計画するかと思いついたのが発端である。

しかし、行ってみると沢山の発見がある。ネパールに行っていなかったら、いまのぼくは無かっただろうから、チャンスというものはどこにころがっているのか、分からないものだ。海外に行かねばならぬ、というものではない。無理してまで行く必要は無い。しかし、思い切れば行けるものなら、行ってしまったほうがお得である。

5 月はトルコに行った。アジアとヨーロッパの架け橋であり、世界遺産も数多い。成田から約 1 2 時間、飛んでイスタンブールである。2 日目トプカプ宮殿に行く。門前に観光客が列を成している。入場料と待ち時間を足して感動を割ると、コンマ以下の数字になる。名物に旨いモノなし、観光地なんてそんなもんかな、とも思う。

3 日目、カバクリ谷をハイキング、午後はローズバレーをハイキングしたが、これが楽しかった。観光地には人が溢れているのに、一步自然の中に入ると人の姿が消える。遺産の点在する自然が僕たちの貸し切り、トルコを訪れる観光客は世界遺産が目的で、トルコの自然を求めてはいない、ということだろう。

6 月はピレネー、これがまた、いい花の山旅であった。アルプスに比して観光客もハイカーも少ない。花の数をハイカーの数で割ると、アルプスではコンマ以下の数字になるが、ピレネーではコンマ以上、お花畑が貸し切りになる。ガバルニー大圏谷には、エーデルワイスが咲いていた。お花畑でエーデルワイスに出会うのは、アフリカのサファリでライオンと遭遇するのと同じくらいに嬉しい。

7 月は、アルプス。今回は日数が 8 日間という制約があったので、アルパインツアーサービス(株)が考えてくれたコース設定が、シャモニ 3 連泊、ボナッティ小屋泊、クールマイユール 2 連泊であった。同じアルプスでも、スイスに寄らず、フランスとイタリアに収めたところが、プランナーのセンスだなと思った。

「地球を遠足」は、海外の山旅を手がけて 40 年を越えるアルパインツアーサービス(株)がアレンジしてくれているので、独特な味のある登山ツアーになっている。海外の魅力の大きなポイントは 8 日とか 10 日とか 12 日という日数だと思う。1 年のうち 1 回くらい、自分のためにそれだけの日数を使ってみてはいかがだろうか……。